

しらかわの 身近な文化財

第二十七話

谷津田川流域
水車跡群

平成10年（1998）8月の記録的な豪雨水害を受けて実施された谷津田川の河川改修工事の際、川岸に近い場所から石組の水路跡が見つかりました。

この水路跡は、水車に伴うものでした。水車は水輪が水を受けて回り、水輪と連動して歯車が回り、杵が動きまわります。この動きを利用した水車による精米や製粉が、江戸時代に普及しました。谷津田川沿岸もまた、江戸時代後半より精米などのために水車が設置されてきました。現在は存在していませんが、絵図や発掘調査により、かつては14基の水車が存在したことが確認できます。

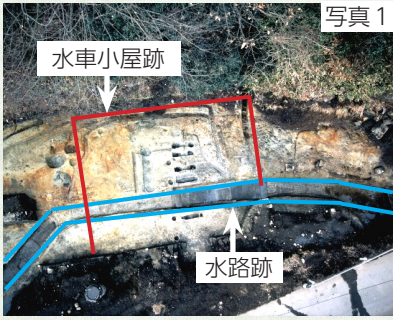


写真1

▲水車小屋跡と水路跡



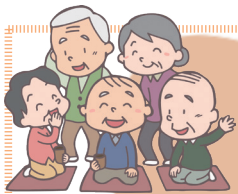
写真2

▲復元されたしみずや跡

その中の1基、しみずや跡は、平成12年（2000）の発掘調査で水路跡が確認され、水路跡を跨ぐように水車小屋が建てられていたことが分かりました（写真1）。発掘調査の成果と文献資料から、水車は明治中期頃から昭和34年（1928）頃まで稼働していたと考えられ、市内の水車を調査した元白二小教諭の衣山武秀氏への聞き取りにより、水車で精米などを行っていたことが確認できました。

市街地を流れる谷津田川には、このように近世以降の生業の様子を示す貴重な遺跡が残されています（写真2）。

問 文化財課 ☎5535



高齢者 Vol.70 あったか広場

問 高齢福祉課高齢者支援係 ☎5519

認知症になってもできること、
認知症に対してできること②

《物忘れのつらさ》

「あれ？何をしに来たんだっけ？」と思う体験をしたことはありませんか？たいていは後で思い出しますが、もし思い出せず、さらにそのような状況が頻繁に起こったらどうでしょう。

認知症になると、このような状況が頻繁に起こります。認知症の人たちは、物忘れをしたときに不愉快や不安な気持ちを抱きながら日々生活をしているのです。

《できなくなってきたことの悔しさ》

認知症になると、仕事や家事など何気なく行ってきたことができなくなり、最初は小さな失敗でもだんだんと重大な失敗に進展する恐れがあります。このような失敗の原因が認知症であるということは理解できなくても、自分がこれまでやってきたことができなくなったことには気付いています。さらに失敗や不手際が目立つようになり、周りの人たちからも指摘され悔しい思いをしたり、少しずつ自信を失っていきたりするのです。

これは、何より認知症の方本人にとって非常に悔しい体験だということを理解することが必要でしょう。

上手くいかないことがあっても、優しい口調での声掛けを心掛けたいですね。



お知らせ
ラウンジ
りづらん
子育て情報
保健情報
くらしの情報館
しらかわの
身近な文化財
高齢者
あったか広場
休日当番医・
無料相談ほか
市長の
手控え帖